

## 第68回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成30年4月23日（月） 14：00－15：10

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、遠藤委員、山崎委員

(2) 政府側

和泉内閣総理大臣補佐官

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、佐藤参事官、須藤参事官、  
高倉参事官、滝澤参事官、山口参事官

総合海洋政策推進事務局 羽尾事務局長

4. 議事次第

(1) 宇宙ビジネスを支える環境整備に関する論点整理タスクフォースにおける検討状況について

(2) 宇宙基本計画の工程表改訂に向けて

(3) 新たな海洋基本計画の検討状況について

(4) 準天頂衛星の今後の展開について

5. 議事

(1) 宇宙ビジネスを支える環境整備に関する論点整理タスクフォースにおける検討状況について

宇宙ビジネスを支える環境整備に関する論点整理タスクフォースにおける検討状況について、事務局より説明し、委員から以下の意見があった。

○宇宙活動法が制定されたとき、宇宙資源に関しては検討していくという記述があったが、宇宙資源開発及び軌道上補償ということで、そのうちの前者の宇宙資源開発に関しては、国内で何らかの法整備をしていこうという方向で進んでいるという理解でよろしいか。(山崎委員)

●政省令で出すのか、法律までやるのか等については、まさに本タスクフォースで議論しているところである。今はベンチャーの宇宙ビジネスが揺籃期にあり、できるだけ応援するような環境整備をしていく予定である。(高田宇宙開発戦略推進事務局長)

○月や小惑星等における衛星等物体同士の衝突とあるが、他のケースと比べると、現状ではとても考えられないようなケースである。(松井委員長代理)

●宇宙資源の探査、開発も一応は軌道上の新しい活動の中に入るため、その中で、概念として分けていったらどうなるかというところでの漏れをなくすための考え方であり、一緒に考える必要がないということもあるかもしれない。ただ、抜け落ちないようにということで例に挙げている。(青木委員)

### (2) 宇宙基本計画の工程表改訂に向けて

宇宙ビジネスを支える環境整備に関する論点整理タスクフォースにおける検討状況について、事務局より説明し、委員から以下の意見があった。

○「必要な宇宙科学予算を確保するためにどのように検討していくか」というのは、今のような仕組みではなくて、別の仕組みを考えないといけないという意味か。(松井委員長代理)

●ここでの意味は、今、科学者が次期に何をやっていったらいいかという弾込めの予算すら枯渇している状況を踏まえ、財政当局への説明、どう弾込めしていくとか、何をどう強化したらいいかという投げかけである。

●財政当局にしっかり認めさせるような意義を明確にしていく検討をしっかりとやるという意味か。(松井委員長代理)

●その通りである。(高田宇宙開発戦略推進事務局長)

### (3) 新たな海洋基本計画の検討状況について

新たな海洋基本計画の検討状況について、羽尾総合海洋総合戦略推進事務局長より説明し、委員から以下の意見があった。

○海洋のビッグデータを用いて、新しい価値の創出に貢献するために、データプラットフォームを活用されているとあるが、宇宙においても、今年度からそうした宇宙データのプラットフォーム整備に着手という状況である。今後、宇宙においても衛星データだけではなくて、地上データと組み合わせることが大切であるという認識だが、こうしたデータプラットフォームをつくるに当たって、これまで宇宙にも反映できそうなレッスンズ・ラーンドなどはあるのか。(山崎委員)

○データ統合に至る前にMDAと称して、そういったものをリアルタイムでできるだけ把握して、海洋に関するさまざまな施策、安全保障はもとより産業振興、環境保全あるいは科学技術の進展、そういったものに使っていこうと思っている。その観点から、もちろん安全保障にかかわる重要な施策、あるいは保秘を要するものはその取り扱いをしているが、民間、大学も含めて利用をできるものについては、現在、海上保安庁で海洋状況表示システムを整備して、関係者の情報を一元的に集め、関係者に使ってもらえるようにといった取り組みも行っている。(羽尾総合海洋政策推進事務局長)

(4) 準天頂衛星の今後の展開について

準天頂衛星の今後の展開について、事務局より説明があった。

以上